



2014年5月号

ようやく小学校にも慣れたと思ったら、言葉遣いが乱暴になった息子（小1）上手な対処法は？



論理アタマが育つポイント

「他者意識」が芽生えたと、短い会話でも意味のある言葉のやり取りになります。親子がお互いの気持ちになって考えるいいきっかけにしましょう。



ただ、他者意識は、一朝一夕で身につくものではなく、問題集をたくさんやればできるようになる力でもありません。経験を積み重ねて鍛えられるものなのです。小学生のうちにも、自分が○○だったと思うか」と考える機会があれば、とても貴重な体験になります。今回のように親子の会話がなぜかすれ違うようになってしまったときこそ、お母さんと子どもがお互いの気持ちをわかり合おうとする素晴らしいチャンス。ぜひ、お母さんから、そのアプローチを

子どもがトーンダウンしてきたら、そのタイミングを見逃さないで、暴言に対して「怒り」ではなく、⑤⑥のように「戸惑い」「悲しさ」を表現しましょう。おそらく、子どもはお母



他者意識をもつということは、「相手の立場に立って考えられる」ということ。思いやりとか性格の問題だと受け取られがちですが、私は日本語のコミュニケーションで最も大切な能力のひとつだと考えています。相手の気持ちや状況を想像して理解しようとするほこそ、自分の言いたいことをわかりやすく伝える方法も見えてくるはず。その力があるから、目的に合った適切な話し方ができたり、文章が書けるようになるのだと思います。

してあげてほしいと思います。それでは、どうして急に言葉遣いが変わってしまったのでしょうか。まず、お母さんが子どもの立場に立って考えてみてください。小学校1年生です。ね。定期的なタイミン

さんに他者意識を感じて、「悪いことをした」と内心ドキリとするはず。親子がお互いを思うことでわかり合える瞬間です。自分が言いたいことを言うだけでは、会話も人間関係も続きません。お母さんが、一度子ども目線において話をすることで、子どもはお母さんの気持ちを視野を広げることができるとは、

今月のお題 伝える技術 4

ようやく小学校にも慣れたと思ったら、言葉遣いが乱暴になった息子（小1）上手な対処法は？

問題文



小学校に入学して、楽しそうに通っている息子。ただ、何かと私に口答えをするようになってしまいました……。

- 私 「うさぎゲームしてるの、せつやめなさいー」
- 息子 「うさぎ」
- 私 「うさぎはうさぎってことないでしょう」
- 息子 「うさぎ。マホカ」
- 私 「どげんか言葉覚えてくるの」
- 息子 「うさぎ。マホカ」
- 私 「いい加減にしろー」
- 息子 「やっせー」

小学校で知り合った新しい友達のためか何かという「うさぎ」「マホカ」「うさぎ」「やっせー」などと言っています。友達の間では仕方ないと思いますが、あまりの暴言には当然、母としてはこのままにはしておけませんー



解答例



乱暴な言葉を使う会話は悲しい、というお母さんの気持ちを伝えましょう。

- 私 「そろそろゲームやめて。学校の用意したら？」
- 息子 「うさぎ。あと少しだからー」
- 私 「うるさいって言われると、お母さん、へこむなー」
- 息子 「なんて、ちょっと待って……、あーっ？」
- 私 「ミスった！ 終わっちゃったー」
- 息子 「ふうー（大げさなため息）」
- 私 「なに？ どうしたの？」
- 息子 「最近、赤太の言葉がきつくて、お母さん悲しくなっちゃー」
- 私 「別にけんかしてるわけじゃないんだから、あんまり荒っぽい言葉はいやだなー」
- 息子 「……はい。いゝえ」

ママのための日本語トレーニング vol.10

論理アタマを育てよう！
新学期が始まり環境が変わると、子どもに思いがけない変化が現れてくることも。そんなとき、慌てる前にちょっとひと呼吸しましょう。子どもの今の様子を論理的に考察してみると解決の糸口が見えてきます。

出口 汪 てくち・ひろし
大学院生時代に予備校の教壇に立ち、独自の論理的解法を駆使した講義でたちまち人気を博し、現代文のトップ講師として30年以上にわたり、教え続ける。2002年に自らの経験の集大成として「論理エンジン」を開発。執筆した受験参考書の売り上げは累計600万部を超える。小学生向けの「出口汪の日本語論理トレーニング」シリーズ（小学館）が好評発売中。